

東京都教育映画コンクール銀賞

原野に生きる

文 部 省 選 定



總 天 然 色 全 6 巻

＜ 製 作 ＞
貯蓄増強中央委員会

＜ 製作担当 ＞
桜 映 画 社

— 製 作 意 図 —

混迷ともいえる複雑化した現代社会の中で、私どもはともすれば生活を見失いがちだが、生活は「生きる」すがたの表現である。

もとより生きる「意欲」が生活を支え発展させる原動力であるが、生活に目標をもち計画を立てる「知恵」が生活を高める。しかし人間は誰でも一人では生きられない。近隣とお互いに協力し合うことで地域社会が築かれ生活も発展する。

この映画は北海道根釧原野に生きる開拓農民の営みの姿から、このような生活の素朴な条件を反省してみようと試みたものである。

上映時間 1 時間 4 分



株 式 会 社 桜 映 画 社

東京都新宿区角筈 2-84 スタンダードビル
電話 361-9820・371-8241~5



あらすじ

北海道の釧路から北にひろがる果しない不毛の湿原をへだてて、陸の孤島と呼ばれる一つの村がある。戦前は放牧による馬の産地だったが、今、村人は酪農に生きている。

しかし毎年冬が迫ると生活に敗れて離農して行く家族がある。

村役場に勤める農業改良普及員の村田は、広大な村内に散ばる農家をジープを駆って訪れ、よい相談相手になつてゐるが、その中から離農していく農家を見ると、果してこれはどうにもならないことかと悩む。保健婦の藤井は、貧しい開拓農民の計画性の無さと、お互いに孤立している現状を指摘する。農協理事の岡本も何とか協同化を押し進めようとするが、思うにまかせない。

原野の人びと——女手ひとつで村田の指導をたよりに墾農に生きようとする若い未亡人のトミ。わが子は女ばかり、牛はオスばかり生む運の悪さをなげく市之助。酒好きで磊落な馬飼いの順造。すぐれた技術と計画性で次第は富農化してゆく利平。原野に芽ばえた愛情に生きる順造の息子と市之助の娘……………。

夏から短かい秋、自然はすばらしく人びとは無我無中で働らく。しかし冬の訪れは生活を一変させる。

連日吹雪が荒れ狂うと、奥地の人たち、市之助もトミも牛乳の搬出が出来ない。組合の事務所では、部落の男たちが集って共同出荷の問題を話合うが生活に追いつめられた市之助は、乳牛を放り出して森林伐採の出面に行ってしまう。男たちの気もちはばらばらである。

その市之助が山で大怪我をした。そして彼も村を捨てる決意をする。だが荒涼たる冬の開拓村にも人間の善意は生きていた。

それは「かあちゃん」と呼ばれる女房たちで、働き者でカラッとした気性の開拓地のかあちゃんにとって冬はお互いに顔を合せて話合える唯一の時期でもあった。

苦しい生活を共に少しづつでも楽にしてゆこうといろいろ話合う中から、かあちゃんたちの結束が固められた。京之助夫婦の離農もひとつとではない。みんなでひきとめようとかあちゃんたちは動き出した。

それに村田や岡本たちの辛抱強い努力、男たちの酪農の基礎を将来に築こうとする目ざめが、やがて一つになって傷ついた市之助をつぎつぎに訪れる劇的な冬の夜を迎える。原野の人びとの間に、長いこと凍りついていたあたたかい気もちが、ようやく流れはじめる。

— スタッフ —

企 画	村 山 英 治
	高 島 道 吉
原 作	早 船 ち よ
脚 本	千 葉 茂 樹
演 出	小 林 千 種
撮 影	佐 藤 正
照 明	飯 塚 茂
音 楽	間 宮 芳 生
編 集	沼 崎 梅 子
録 音	大 橋 鉄 也
記 録	吉 田 栄 子
助監督	山 崎 定 人

— キャスト —

永 井 柳太郎	荒 川 さつき
陶 隆	戸 川 暁 子
岡 部 政 明	北 里 深 雪
小 林 十九二	関 京 子
坂 内 弘 治	戸 田 春 子
(語り手) 宇 野 重 吉	

(協 力)

北海道阿寒郡鶴居村役場

札幌NHK

劇団新人会